

「生活研究論」大阪教育大学(2008～2009)・「生活科学原論」同志社女子大学 表真美

1. シラバス

生活研究論	開講年時 3 年	単位数 2	学期 集中	2008～2009 担当
生活科学原論	開講年時 4 年	単位数 2	学期 後期	2009～2011 担当
担当教員	表 真美 (京都女子大学)			
受講人数	大阪教育大学：約 30 名 同志社女子大学：約 75 名			
科目分類	専門科目			
選択／必修	いずれも必修	授業形態	講義と演習	
授業の目標	生活とは何かを考え、生活研究の意義を認識するとともに、家庭科教育の基礎となる「家政学」の学問的特徴を理解し、生活を学問的にとらえる視点を育成する			
授業の概要	研究対象としての生活のとらえ方、および、生活を総合的に研究する家政学の学問理論、学史、諸外国の家政学の現状、家政学と人間生活・社会とのかかわりについて、講義を中心に進行し、一部に演習を取り入れる。			
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活研究 (同志社女子大：生活) とは何か、生活研究の系譜 2. 生活研究における家政学の位置づけ (同志社女子：生活科学と家政学) 3. 家政学の名称・目的・大正 4. 家政学方法・体系・独自性 5. 家政学成立史 6. 戦後の家政学・家政教育 7. 国際視野からの家政学 8. アメリカの家政学・家政教育 9. アジア・ヨーロッパ・アフリカの家政学・家政教育 10. 生活とは何か・生活の変遷 11. 生活研究と食・衣・住生活、家族の生活、消費者問題、福祉 (同志社女子：研究発表 1) 12. 生活研究に関する受講生の研究発表 1 (演習) 13. 生活研究に関する受講生の研究発表 2 (演習) 14. 生活研究に関する受講生の研究発表 3 (演習) 15. まとめと試験 			
テキスト	テキストの指定は行わない。(2009 年のみ参考文献①をテキストに指定)			
参考文献	<p>①富田守・松岡明子編『家政学原論 生活総合科学へのアプローチ』朝倉書店 (2001)</p> <p>②松岡明子編『家政学の未来・生活・消費・環境へのニューパラダイム』有斐閣 (2004)</p>			
評価方法・基準	研究発表 (50%)、試験 (50%)			

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

① パワーポイントとその内容に準拠したワークブックを用いた授業

講義の部分はすべてパワーポイントを用いた。

パワーポイントのプリント資料を配布しない場合、受講生がノートをとるのが難しい。また、資料を配布してしまうと、既に授業内容のほとんどが手元にあるので、集中して聴講を行わなかったり、安心して居眠りをしてしまう受講生も現れがちである。そこで本稿では、重要な学んでほしいキーワードの部分を白抜きしたワークブックを配布し、授業を聴きながら白抜きの部分を各自で書き込み、完成させる形式とした。そして、試験はそのワークブックのみもち込み可能とした。

② 理解しやすい平易な説明に努める

学問論の内容は、なるべくわかりやすく、受講生の身近な事象を交えながら説明した。例えば、諸外国の家政教育では、外国の家庭科教科書の実物見本や、家庭科の授業風景の写真なども提示し、世界で家政学、家庭科が教育されていることを楽しく学べるように配慮した。

③ 演習

大阪教育大は個人、同志社女子大はグループで自身の専門以外の家政学の研究論文を学会誌や研究紀要から選び、レジュメにまとめて発表した。ユニークで意義深い研究が数多くあることを受講生だけでなく筆者も知ることが出来、大変有意義であったと思う。

④ 試験

試験はワークシートのもち込みを可能にして行ったが、試験問題は考えさせる内容にした。例えば、「現在の家政学がかかえる課題を挙げ、その解決方法についての考えをまとめなさい。」など。ジェンダー、社会的認知が低い、政策に訴えることができないなど、ワークシートにはないが、私が授業中に話した事柄を的確に課題に挙げ、解決方法を考える受講生もいた。

以上